

平成23年社会生活基本調査 「生活行動に関する結果」 — 岩手県の概要 —

平成24年7月23日
岩手県政策地域部

調査の概要

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることにより、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、昭和51年以来5年ごとに総務省が実施しています。

平成23年に行われた調査は、平成23年10月20日を調査日として、平成17年国勢調査の調査区から選定された99調査区内の約3千人（全国では6,902調査区、約20万人）を調査の対象としました。

この資料は、総務省が平成24年7月13日に公表した過去1年間の生活行動に係る集計結果から、岩手県に關係する部分を概要としてまとめたものです。

なお、国民の生活時間の配分に関する調査結果は、本年9月に公表される予定です。

◎ 調査結果の概略(岩手県)

1 学習・自己啓発・訓練(P2)

○「学習・自己啓発・訓練」の行動者数は35万6千人、行動者率は30.3%(男性29.4%、女性31.1%)。

「パソコンなどの情報処理」などは行動者率が上昇。

○全国の行動者率は35.2%(男性34.3%、女性36.1%)。本県は全国第34位(平成18年第42位)。

2 スポーツ(P4)

○「スポーツ」の行動者数は64万7千人、行動者率は55.0%(男性60.1%、女性50.5%)で全体的に低下傾向。

「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「ボウリング」となっている。

○全国の行動者率は63.0%(男性67.9%、女性58.3%)。本県は全国第44位(平成18年第42位)。

3 趣味・娯楽(P7)

○「趣味・娯楽」の行動者数は93万2千人、行動者率は79.4%(男性79.1%、女性79.6%)で全体的に低下傾向。

「CDなどによる音楽鑑賞」「DVDなどによる映画鑑賞」「趣味としての読書」が高い。前回(H18)に比べ「音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」「テレビゲーム・パソコンゲーム」などは行動者率が上昇。

○全国の行動者率は84.8%(男性84.8%、女性84.9%)。本県は全国第41位(平成18年第38位)。

4 ボランティア活動(P10)

○「ボランティア活動」の行動者数は39万6千人、行動者率は33.7%(男性33.5%、女性33.9%)。

男女共に「まちづくりのための活動」が最も高い行動者率。前回(H18)に比べ「災害に関係した活動」「子供を対象とした活動」が上昇。

○全国の行動者率は26.3%(男性24.5%、女性27.9%)。本県は全国第5位(平成18年第8位)。

5 旅行・行楽(P12)

○「旅行・行楽」の行動者数は76万6千人、行動者率は65.2%(男性64.1%、女性66.2%)。

「行楽(日帰り)」が最も高く、次いで観光旅行(国内)となっている。観光旅行(海外)は2.8%にとどまっている。

○全国の行動者率は73.2%(男性71.1%、女性75.3%)。本県は全国第41位(平成18年第41位)。

注1) 行動者数：過去1年間に該当する種類の活動を行った人(10歳以上)の数

注2) 行動者率：行動者数の10歳以上人口に占める割合(%)

1 学習・自己啓発・訓練

(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は35万6千人、行動者率は30.3%

過去1年間に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は35万6千人で、行動者率は30.3%となっている。男女別にみると、男性が16万5千人、女性が19万1千人となっており、行動者率は男性が29.4%、女性が31.1%で、女性が男性より1.7ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年に比べ3.0ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が3.3ポイント、女性が2.8ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が45.1%と最も高く、これより年齢が高くなるにつれておおむね低下している。これを男女別にみると、35歳以上45歳未満の年齢階級及び75歳以上の年齢階級を除いて女性の方が高くなっている。（図1-1、図1-2）

図1-1 年齢階級別「学習・自己啓発・訓練」の行動者率（平成18年、23年）

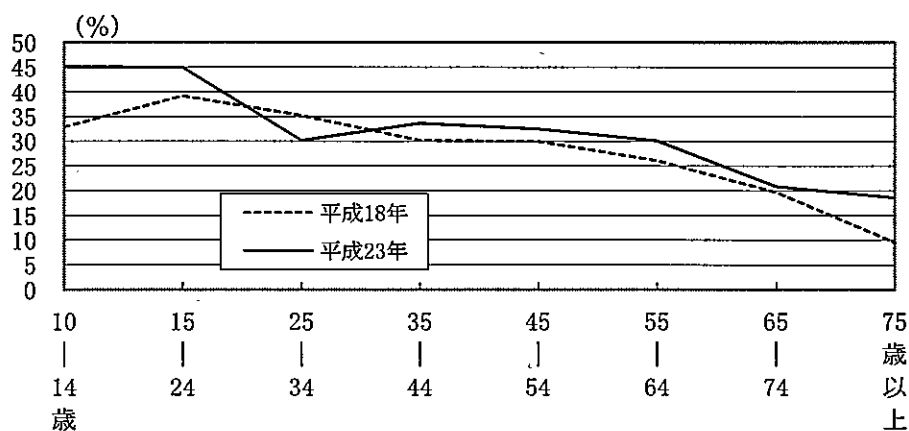
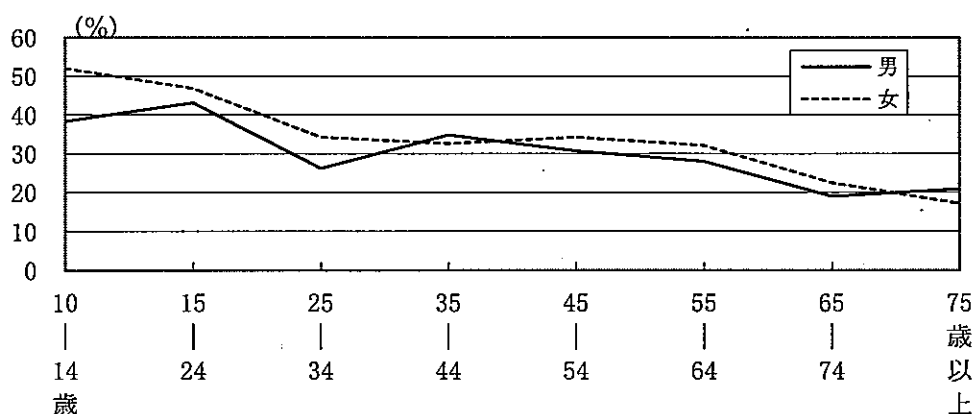


図1-2 男女、年齢階級別「学習・自己啓発・訓練」の行動者率



注：「学習・自己啓発・訓練」は、社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 「パソコンなどの情報処理」は行動者率が上昇

「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が10.1%と最も高く、次いで「芸術・文化」が8.7%などとなっている。これを男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が12.9%と最も高く、次いで「人文・社会・自然科学」が7.3%、「商業実務・ビジネス関係」が7.1%などとなっている。女性は「家政・家事」が11.3%と最も高く、次いで「芸術・文化」が10.8%、「パソコンなどの情報処理」が7.7%などとなっている。

平成18年と比べると、「パソコンなどの情報処理」が2.0ポイント上昇、「介護関係」が0.6ポイント低下などとなっている。(図1-3、図1-4)

図1-3 男女、「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率

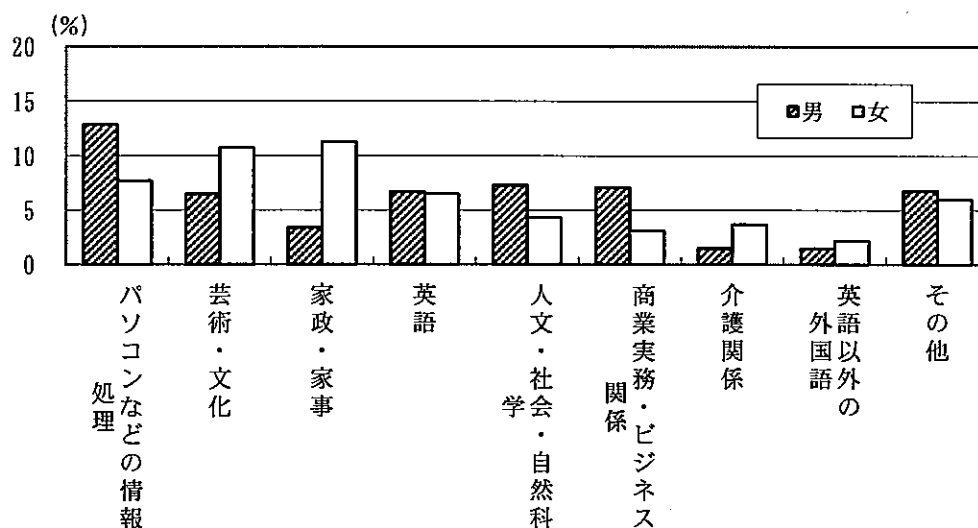
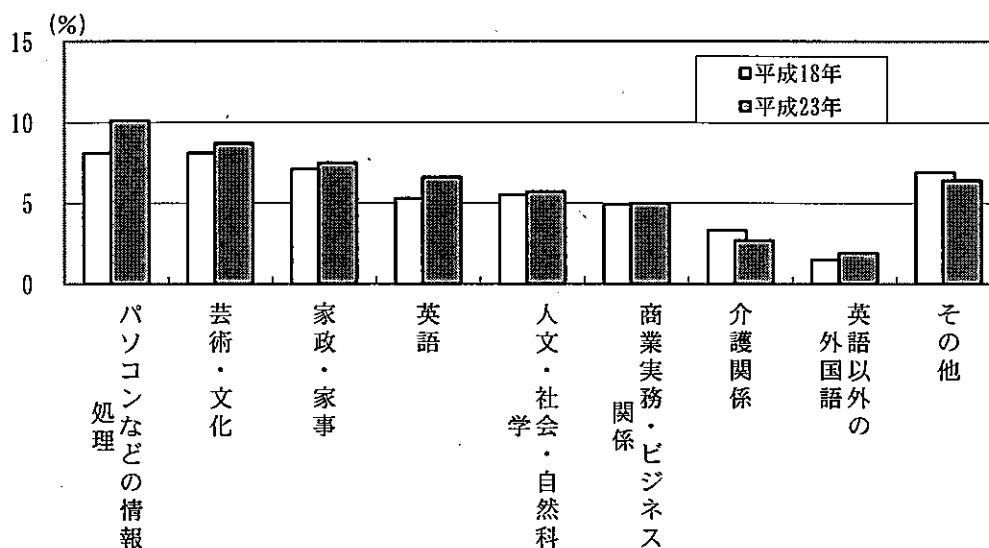


図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成18年、23年）



2 スポーツ

- (1) 1年間に「スポーツ」を行った人は64万7千人、行動者率は55.0%で5年前より3.2ポイント低下

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は64万7千人で、行動者率は55.0%となっている。男女別にみると、男性が33万7千人、女性が31万人となっており、行動者率は男性が60.1%、女性が50.5%で、男性が女性より9.6ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年に比べ3.2ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が3.9ポイント低下、女性が2.5ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が93.5%と最も高く、年齢が高くなるにつれて低下している。これを男女別にみると、25歳～34歳を除き男性の方が高くなっている。（図2-1、図2-2）

図2-1 年齢階級別「スポーツ」の行動者率（平成18年、23年）

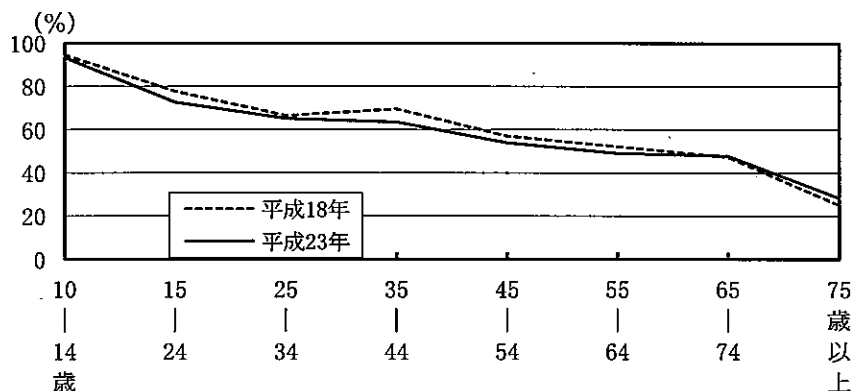
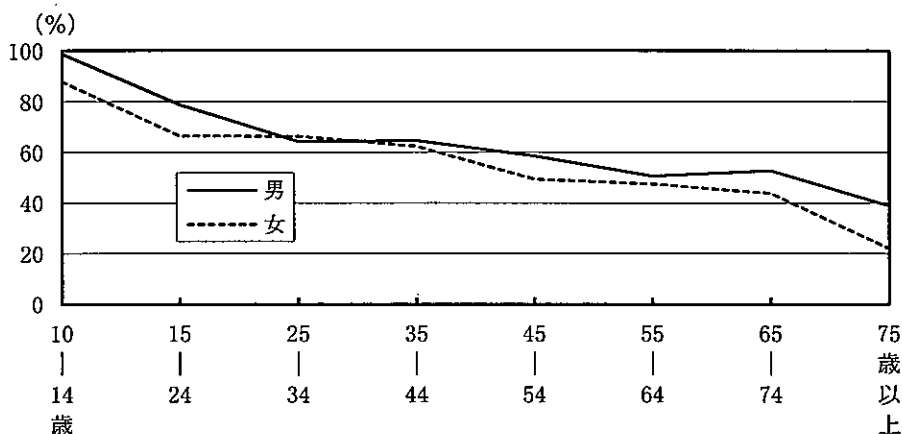


図2-2 男女、年齢階級別「スポーツ」の行動者率



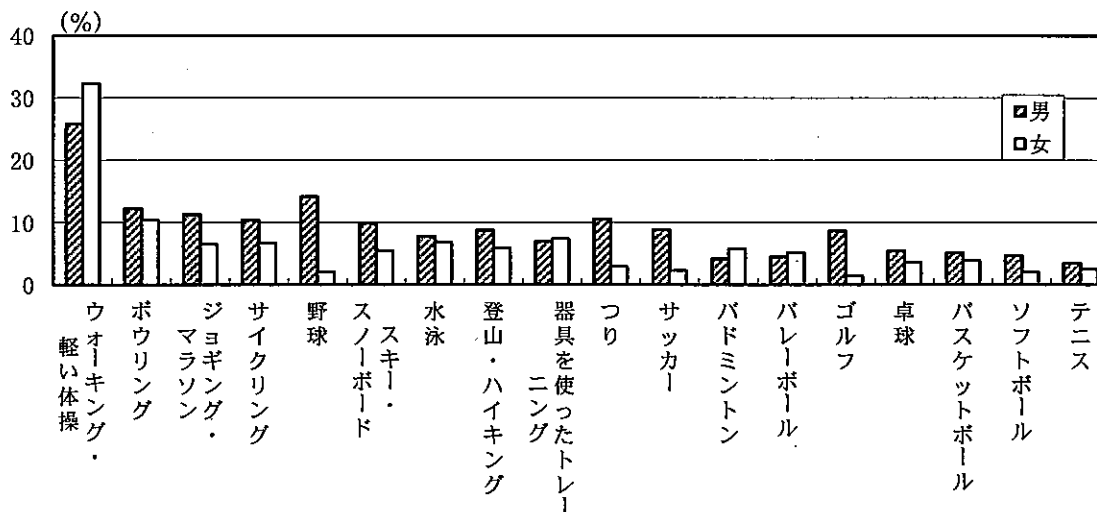
注：「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 行動者率は全体的に低下傾向

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が29.3%と最も高く、次いで「ボウリング」が11.3%となっている。これを男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで男性は「野球」、女性は「ボウリング」などとなっている。

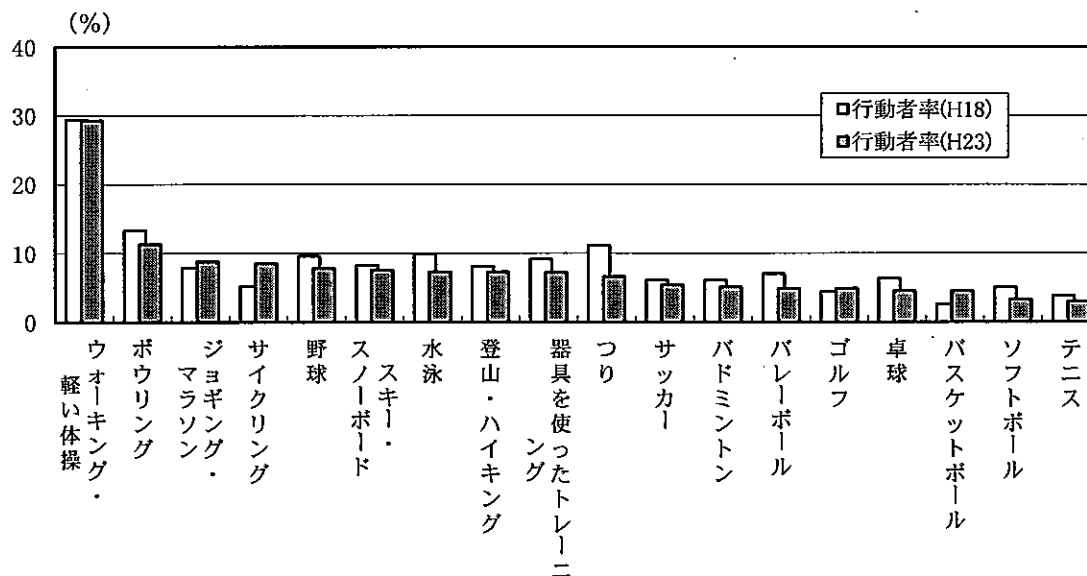
「スポーツ」の種類について、平成18年と比べると、「スキー・スノーボード」が2.6ポイント低下、「バレーボール」が2.1ポイント低下などとなっており、「ジョギング・マラソン」「サイクリング」「ゴルフ」「バスケットボール」を除くすべての種類で行動者率は低下している。（図2-3、図2-4）

図2-3 男女、「スポーツ」の種類別行動者率



注：行動者率が3%以上の種類を表章。

図2-4 「スポーツ」の種類別行動者率（平成18年、23年）

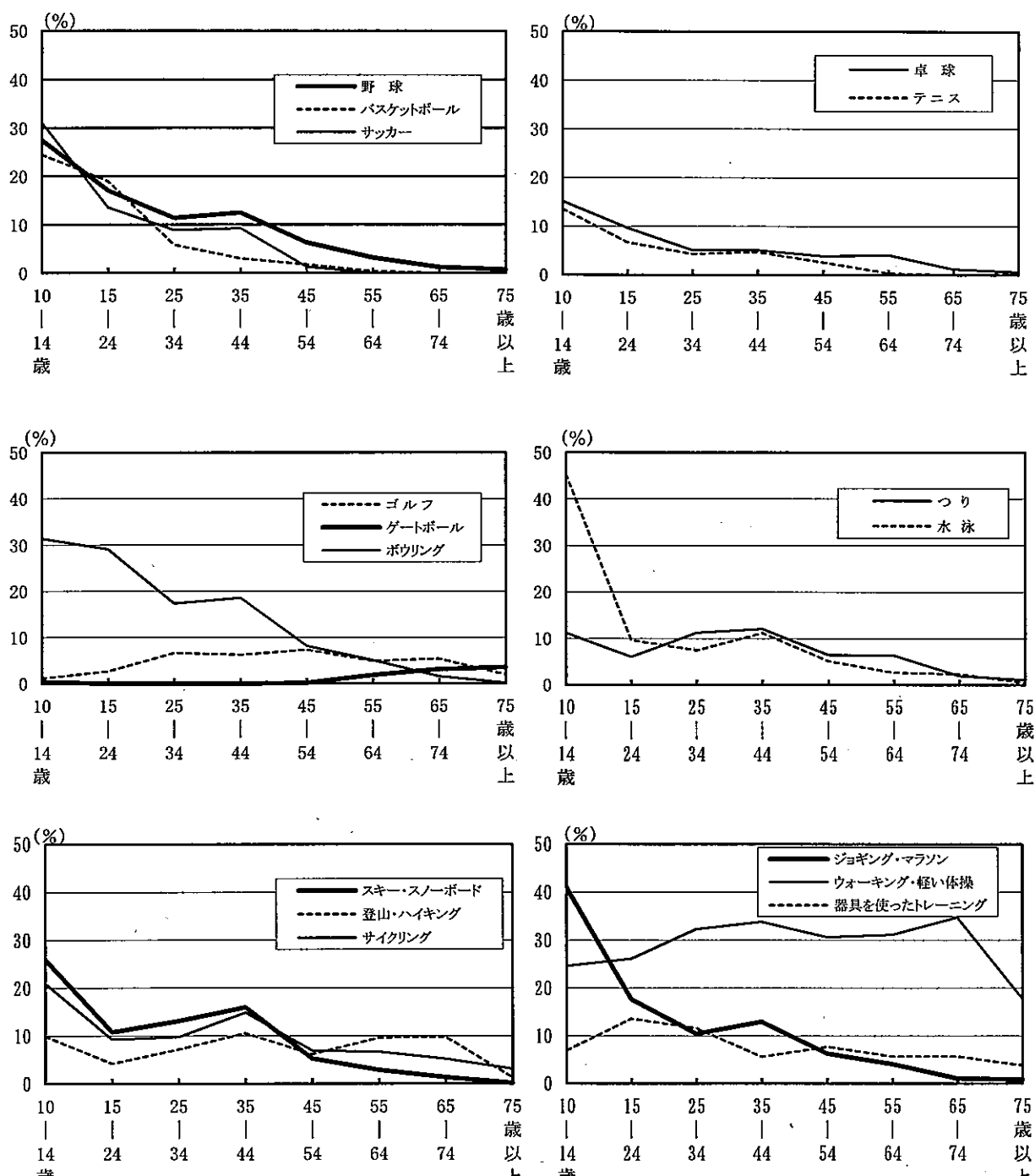


注：行動者率が3%以上の種類を表章。

(3) 「水泳」は10～14歳、「ウォーキング・軽い体操」は65～74歳で行動者率が最も高い

主な「スポーツ」の種類別行動者率を年齢階級別にみると、「水泳」「ボウリング」などは10～14歳、「登山・ハイキング」は35～44歳、「ゴルフ」は45～54歳、「ウォーキング・軽い体操」は65～74歳、「ゲートボール」は75歳以上で最も高くなっている。
(図2-5)

図2-5 主な「スポーツ」の種類、年齢階級別行動者率



4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は93万2千人、行動者率は79.4%

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は93万2千人で、行動者率は79.4%となっている。男女別にみると、男性が44万3千人、女性が48万9千人となっており、行動者率は男性が79.1%、女性が79.6%で、女性が男性より0.5ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年に比べ1.2ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が1.2ポイント、女性が1.3ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が93.7%と最も高く、年齢が高くなるにつれて低下している。これを男女別にみると、10～14歳、35～44歳及び65～74歳を除いて女性の方が高くなっている。（図3-1、図3-2）

図3-1 年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率（平成18年、23年）

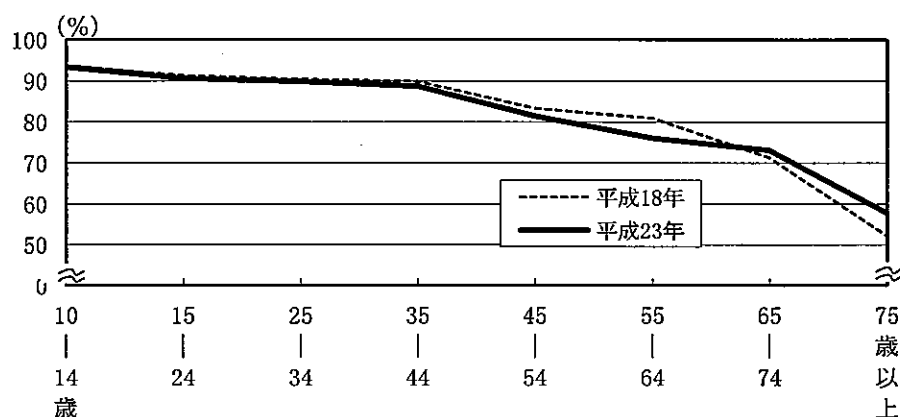
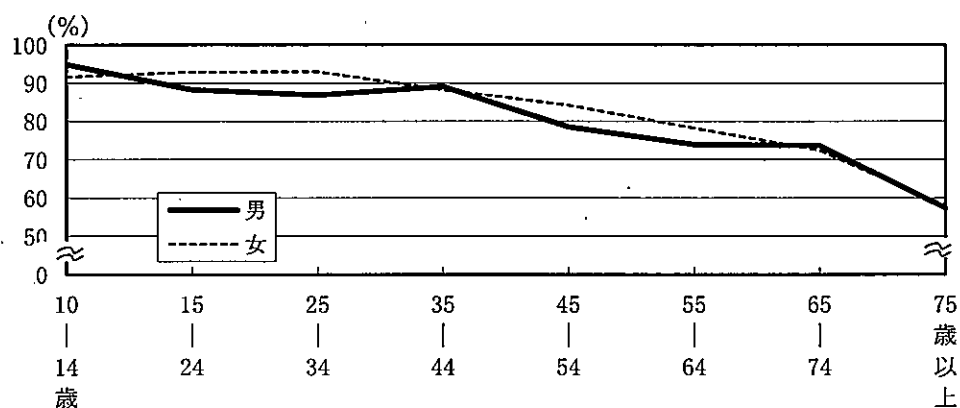


図3-2 男女、年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率



(2) 「音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」、「テレビゲーム、パソコンゲーム」、「趣味としての料理・菓子作り」などは行動者率が上昇

「趣味・娯楽」の種類別行動者率をみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が40.3%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が34.5%、「趣味としての読書」が34.2%などとなっている。これを男女別にみると、男性は「CDなどによる音楽鑑賞」が39.9%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が35.2%、「テレビゲーム、パソコンゲーム」が34.1%などとなっている。女性は「CDなどによる音楽鑑賞」が40.7%と最も高く、次いで「趣味としての読書」が38.2%、「DVDなどによる映画鑑賞」が33.8%などとなっている。（図3-3）

「趣味・娯楽」の種類について、平成18年と比べると、「音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」が3.3ポイント上昇、「テレビゲーム・パソコンゲーム」が0.4ポイント上昇、「趣味としての料理・菓子作り」が0.2ポイント上昇などとなっている。一方、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」が3.5ポイント低下、「CDなどによる音楽鑑賞」が3.3ポイント低下などとなっており、行動者率が10%以上となった15種類のうち12種類で行動者率が低下している。（図3-4）

図3-3 男女、「趣味・娯楽」の種類別行動者率

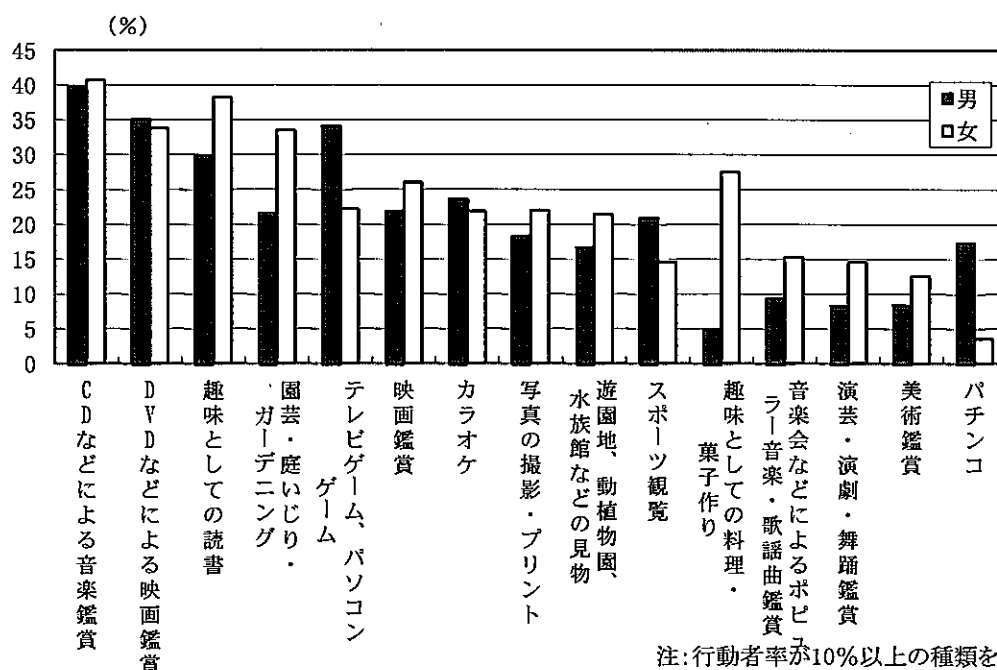
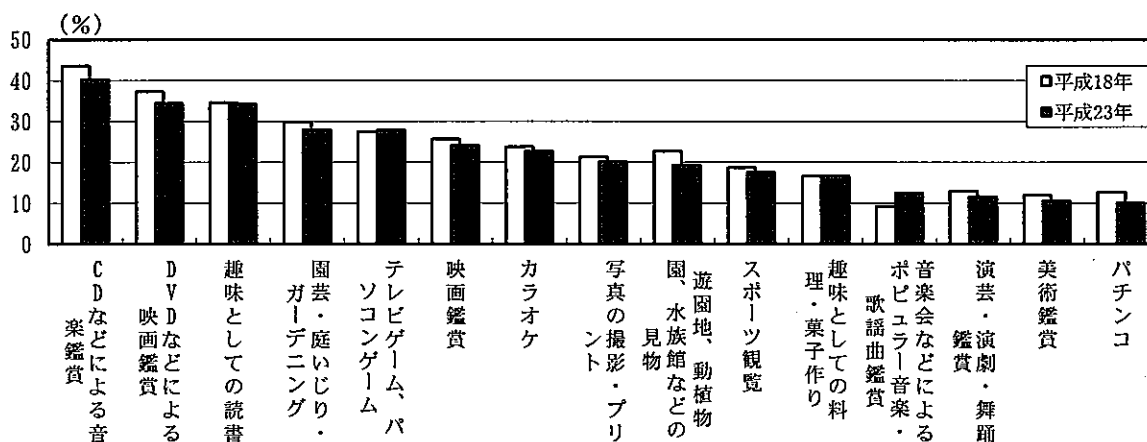


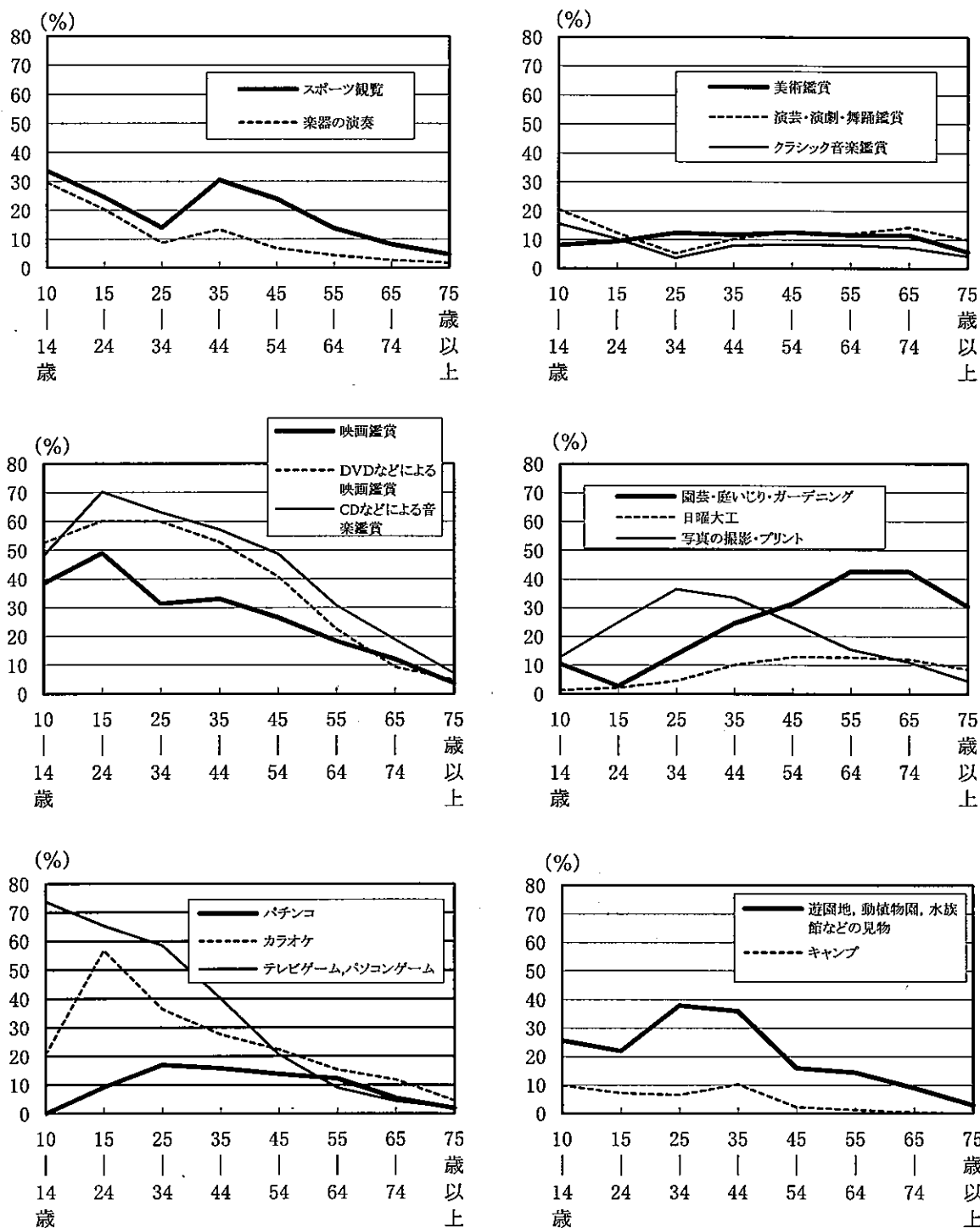
図3-4 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）



- (3) 「テレビゲーム、パソコンゲーム」などは10～14歳、「園芸・庭いじり・ガーデニング」などは55～64歳で行動者率が最も高い

主な「趣味・娯楽」の種類別行動者率を年齢階級別にみると、「テレビゲーム、パソコンゲーム」は10～14歳、「カラオケ」、「DVDなどによる映画鑑賞」は15～24歳、「園芸・庭いじり・ガーデニング」は55～64歳で最も高くなっている。(図3-5)

図3-5 主な「趣味・娯楽」の種類、年齢階級別行動者率



4 ボランティア活動

- (1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は39万6千人、行動者率は33.7%で5年前より0.1ポイント上昇

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は39万6千人で、行動者率は33.7%となっている。男女別にみると、男性が18万7千人、女性が20万9千人となっており、行動者率は男性が33.5%、女性が33.9%で、女性が男性より0.4ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年に比べ1.0ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が0.2ポイント、女性が1.8ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳が43.1%と最も高く、75歳以上が21.9%と最も低くなっている。これを男女別にみると、55歳以上では男性の方が高くなっている。（図4-1、図4-2）

図4-1 年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率（平成18年、23年）

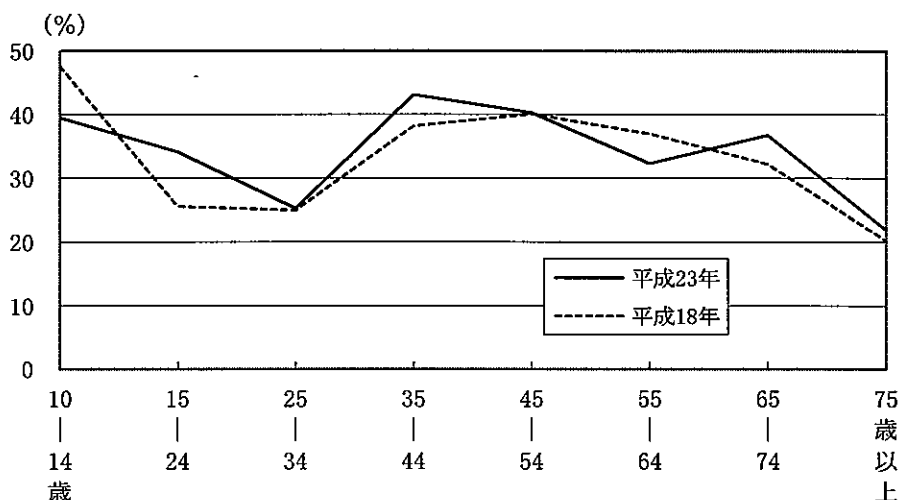
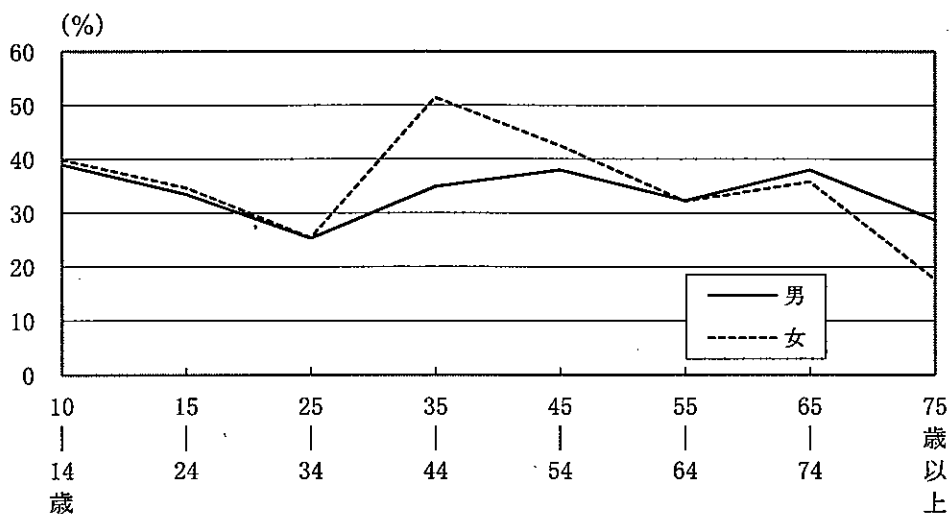


図4-2 男女、年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率



(2) 種類別行動者率は10活動のうち8活動で低下
男女共に「まちづくりのための活動」が最も高い行動者率

「ボランティア活動」の種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が16.7%と最も高く、次いで「災害に関係した活動」が11.1%、「子供を対象とした活動」が9.6%などとなっている。これを男女別にみると、男女共に「まちづくりのための活動」が最も高く、次いで男性は「災害に関係した活動」、女性は「子供を対象とした活動」などとなっている。

「ボランティア活動」の種類について、平成18年と比べると、「災害に関係した活動」、「子供を対象とした活動」が上昇している。（図4-3、図4-4）

図4-3 男女、「ボランティア活動」の種類別行動者率

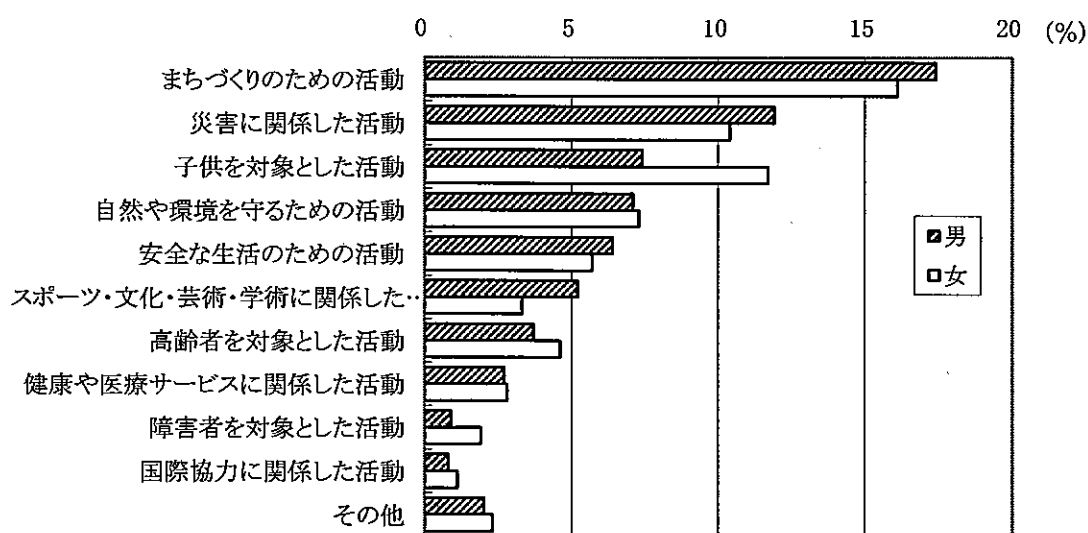
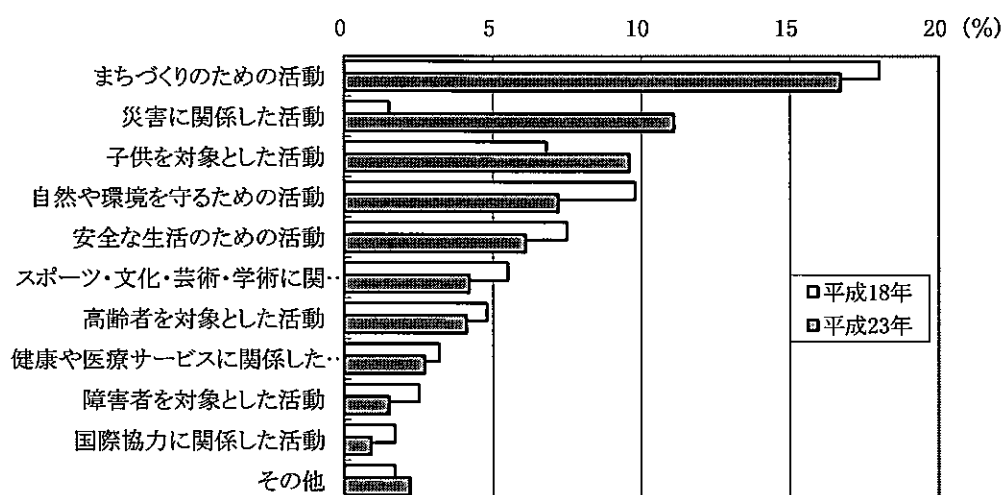


図4-4 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成18年、23年）



5 旅行・行楽

- (1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は76万6千人、行動者率は69.3%で5年前より1.5ポイント低下

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は76万6千人で、行動者率は65.2%となっている。男女別にみると、男性が35万9千人、女性が40万7千人となっており、行動者率は男性が64.1%、女性が66.2%で、女性が男性より2.1ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年に比べ4.1ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が2.2ポイント低下、女性が5.8ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳が79.7%と最も高く、75歳以上が42.7%と最も低くなっている。これを男女別にみると、35歳以上45歳未満の年齢階級及び65歳以上の年齢階級を除いて女性の方が高くなっている。（図5－1、図5－2）

図5－1 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率（平成18年、23年）

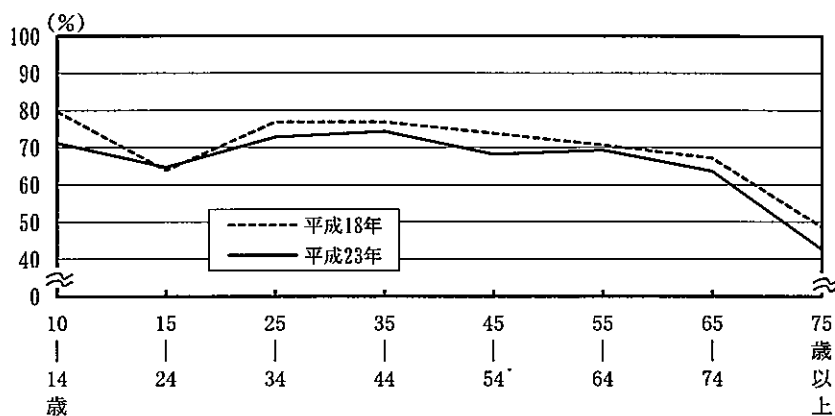
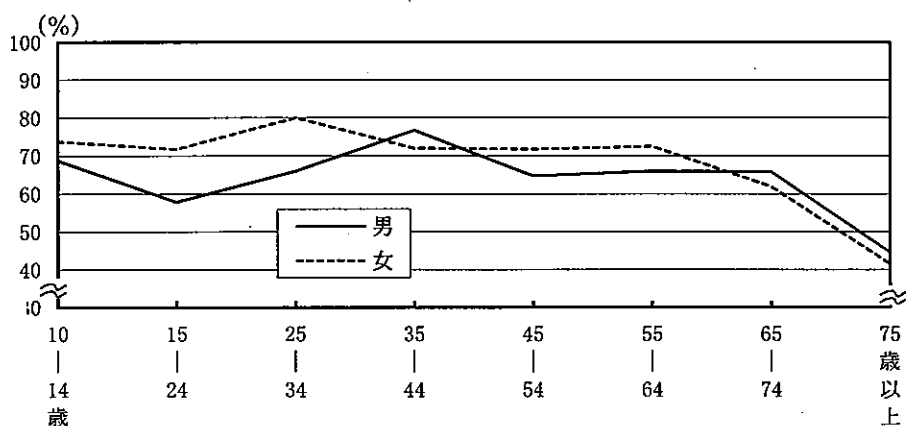


図5－2 男女、年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率



(2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が34.6%、「観光旅行（海外）」は2.8%

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が53.3%、観光旅行では国内が34.6%、海外が2.8%となっている。これを男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、すべての種類で女性の方が高くなっている。

平成18年と比べると、すべての種類で行動者率は低下している。（図5-3、図5-4）

図5-3 男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率

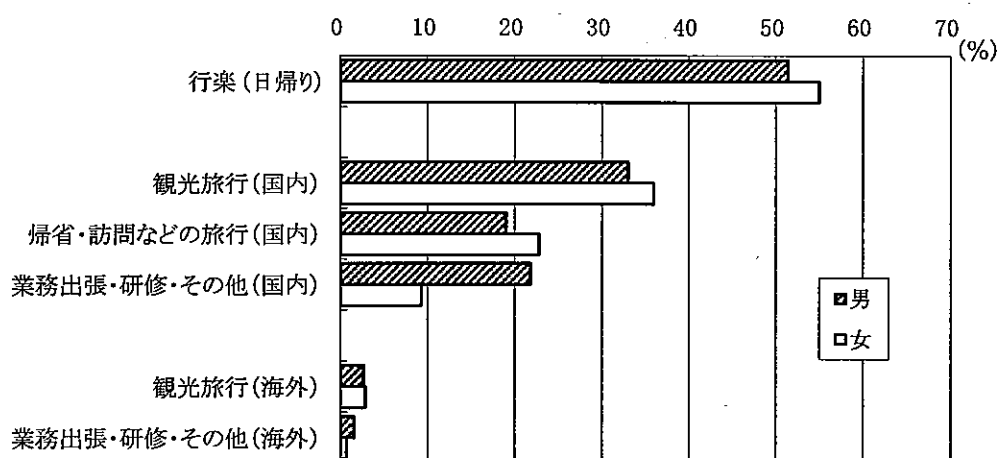
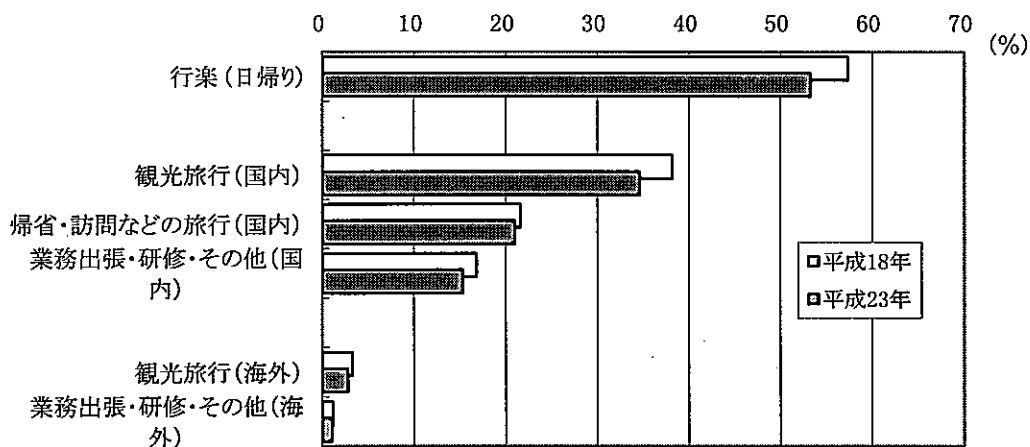


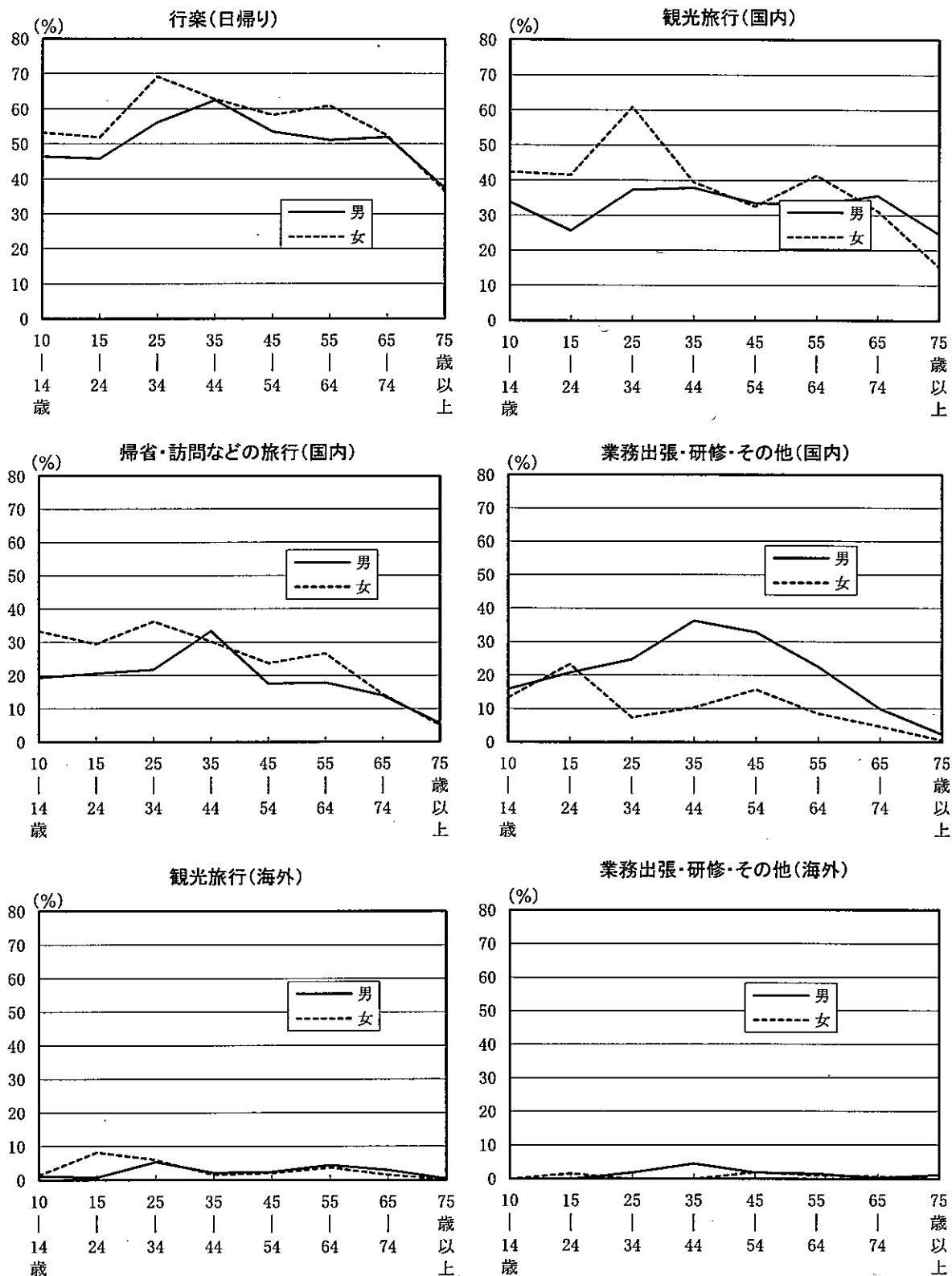
図5-4 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）



(3) 「観光旅行（海外）」の行動者率は、男性は25～34歳、女性は15～24歳が最も高い

「旅行・行楽」の種類別の行動者率を男女別にみると、「観光旅行（国内）」については、男性は35～44歳が最も高く、次いで25～34歳などとなっており、女性は25～34歳が最も高く、次いで10～14歳などとなっている。「観光旅行（海外）」については、男性は25～34歳が最も高く、女性は15～24歳が最も高くなっている。（図5－5）

図5－5 「旅行・行楽」の種類、男女、年齢階級別行動者率

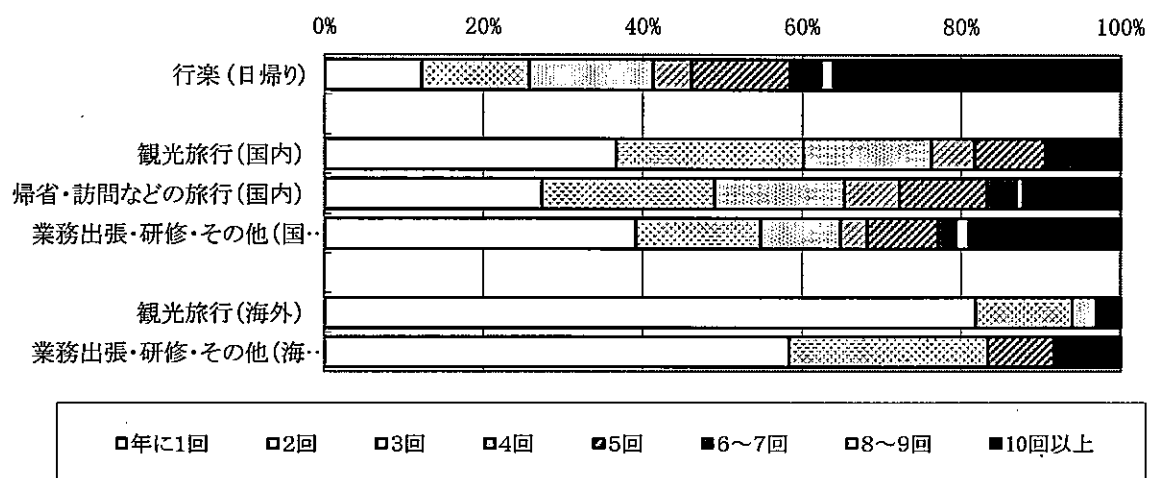


(4) 「行楽（日帰り）」は「年に10回以上」が最も多い

「旅行・行楽」の種類別に行動者の頻度別構成比をみると、「行楽（日帰り）」は「年に10回以上」が最も多く、ほかは「年に1回」が最も多くなっている。

（図5－6）

図5－6 「旅行・行楽」の種類、頻度別行動者構成比



注：頻度不詳を除く。

(資料) 平成23年社会生活基本調査結果(全国)

(単位: %)

学習・自己啓発・訓練			スポーツ			趣味・娯楽			ボランティア活動			旅行・行楽		
順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率	順位	都道府県	行動者率
1	東京都	44.7	1	東京都	68.6	1	神奈川県	88.7	1	山形県	35.3	1	滋賀県	79
2	神奈川県	42.1	2	滋賀県	67.9	2	東京都	88.5	2	島根県	34.8	2	神奈川県	78.3
3	滋賀県	39.2	3	埼玉県	66.9	3	埼玉県	87.9	3	鹿児島県	34.4	3	愛知県	77.6
4	奈良県	38.4	4	神奈川県	66.1	4	奈良県	87.1	4	鳥取県	33.9	4	東京都	77.3
5	京都府	37.9	5	千葉県	66	5	広島県	86.7	5	岩手県	33.7	5	奈良県	76.8
6	千葉県	37.7	6	山梨県	65.2	6	愛知県	86.6	6	長野県	33.1	6	埼玉県	76.7
7	兵庫県	37.1	7	愛知県	65.1	6	滋賀県	86.6	7	岐阜県	32.8	7	富山県	76.1
8	埼玉県	36.8	8	奈良県	64.5	8	千葉県	86.2	8	滋賀県	32.6	8	兵庫県	75.9
9	大阪府	36.5	9	群馬県	63.7	9	大阪府	85.9	9	佐賀県	31.8	9	長野県	75.3
10	宮城県	35.8	9	長野県	63.7	10	宮城県	85.5	10	福井県	31.3	10	山梨県	75
10	長野県	35.8	11	栃木県	63.4	10	兵庫県	85.5	10	岡山県	31.3	11	岐阜県	74.6
全国		35.2	12	静岡県	63.3	12	北海道	85.3	12	山梨県	31.2	12	福井県	74.5
12	広島県	35.2	12	京都府	63.3	13	京都府	84.9	13	山口県	31	12	広島県	74.5
13	福岡県	34.2	全国		63	全国		84.8	14	宮城県	30.7	14	石川県	74.4
14	愛知県	33.4	14	大阪府	62.9	14	石川県	84.6	14	熊本県	30.7	15	千葉県	74.2
15	山梨県	33.2	15	広島県	62.7	15	群馬県	84.5	16	富山県	29.6	16	群馬県	74.1
16	茨城県	32.9	16	兵庫県	62.6	15	山梨県	84.5	17	群馬県	29.2	16	京都府	74.1
16	岡山県	32.9	17	茨城県	62.3	15	山口県	84.5	17	石川県	29.2	18	宮城県	73.9
18	島根県	32.6	17	山口県	62.3	18	長野県	84.2	19	秋田県	28.9	19	大阪府	73.5
19	福井県	32.5	17	沖縄県	62.3	18	三重県	84.2	19	広島県	28.9	20	三重県	73.3
20	静岡県	32	20	石川県	62.1	20	富山県	84.1	19	大分県	28.9	全国		73.2
20	香川県	32	20	三重県	62.1	21	岐阜県	83.8	22	静岡県	28.5	21	福島県	72.3
22	岐阜県	31.9	22	富山県	62	22	福岡県	83.5	23	香川県	27.8	22	栃木県	72.1
23	三重県	31.8	23	宮崎県	61.9	23	静岡県	83.2	23	宮崎県	27.8	22	福岡県	72.1
24	石川県	31.7	24	岐阜県	61.7	24	茨城県	83.0	25	奈良県	27.7	24	北海道	72
25	北海道	31.5	25	鹿児島県	61.4	25	栃木県	82.8	26	愛媛県	27.4	25	山口県	71.2
25	富山県	31.5	26	島根県	60.9	26	岡山県	82.5	27	福岡県	27.3	26	静岡県	71
25	鳥取県	31.5	27	大分県	60.6	26	香川県	82.5	28	福島県	27.2	27	岡山県	70.7
28	愛媛県	31.4	28	岡山県	60.3	28	福島県	82.4	29	長崎県	26.9	27	香川県	70.7
28	沖縄県	31.4	28	熊本県	60.3	29	福井県	82	30	三重県	26.7	29	新潟県	70.4
30	群馬県	31.3	30	宮城県	60.2	29	和歌山県	82	全国		26.3	30	茨城県	69.6
30	山口県	31.3	30	愛媛県	60.2	31	山形県	81.7	31	栃木県	26.2	31	山形県	69.5
32	佐賀県	31.1	32	長崎県	60.1	32	大分県	81.1	32	千葉県	26	32	島根県	69.2
33	大分県	30.6	33	北海道	60	33	佐賀県	80.8	33	茨城県	25.8	33	鳥取県	68.4
34	岩手県	30.3	34	福岡県	59.6	34	愛媛県	80.7	34	兵庫県	25.7	33	佐賀県	68.4
35	熊本県	30.2	35	香川県	59.5	35	秋田県	80.6	35	東京都	24.6	35	大分県	68.1
36	和歌山県	29.7	36	鳥取県	58.5	35	鳥取県	80.6	36	神奈川県	24.4	36	熊本県	67.7
37	宮崎県	29.6	37	佐賀県	57.8	37	新潟県	80.4	37	徳島県	24.3	37	鹿児島県	67
37	鹿児島県	29.6	38	徳島県	57.5	38	鹿児島県	80.3	38	和歌山県	24.2	38	秋田県	66.8
39	栃木県	29.4	39	福井県	57.4	39	沖縄県	79.7	39	埼玉県	24	39	徳島県	66.5
40	長崎県	29.2	40	新潟県	57.2	40	島根県	79.5	40	北海道	23.8	40	和歌山県	66
41	徳島県	28.5	41	山形県	57	41	岩手県	79.4	41	高知県	23.7	41	岩手県	65.2
42	福島県	28.1	41	福島県	57	41	長崎県	79.4	42	新潟県	23.5	41	愛媛県	65.2
43	山形県	28	43	和歌山県	56.9	43	熊本県	79.3	43	京都府	23.2	43	長崎県	65
44	高知県	27.8	44	岩手県	55	44	徳島県	79.1	44	愛知県	23.1	44	宮崎県	64.9
45	新潟県	27	45	高知県	54.7	45	宮崎県	78.7	45	青森県	22.7	45	青森県	59.1
46	青森県	26	46	秋田県	53.9	46	高知県	75.7	46	沖縄県	22.4	46	高知県	56.7
47	秋田県	25.4	47	青森県	49.4	47	青森県	75.0	47	大阪府	20.6	47	沖縄県	50.8

【問い合わせ先】 〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号

岩手県政策地域部調査統計課 生活統計担当

TEL 019-629-5303 FAX 019-629-5309

E-mail AA0003@pref.iwate.jp

<http://www3.pref.iwate.jp/webdb/view/outside/s14Tokei/top.html>